

目 次



埼玉県立自然の博物館の使命について	2
1 沿革	3
2 組織及び職員構成	5
3 施設の概要	6
4 常設展示の概要	7
5 平成26年度事業計画	
(1) 管理運営事業	8
(2) 展示事業	8
(3) 教育普及事業	10
(4) 資料収集整理事業	12
(5) 調査研究事業	12
6 平成25年度事業報告	
(1) 展示事業	13
(2) 教育普及事業	17
教育普及事業内容	19
教育普及事業内容(環境担当)	30
7 調査研究事業	33
8 資料収集保管事業	39
9 管理運営事業	42

埼玉県立自然の博物館の使命について

県立自然と川の博物館は、自然及び川と人々の暮らしとのかかわりに関する資料の収集・保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図り、もって教育、学術及び文化の発展に寄与する博物館です。

自然の博物館は、「過去から未来へ埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、自然資料を収集・保管し、調査研究して将来へ継承し、情報を発信します。

また、学習を支援して、自然に関心を持つよう人材を育成し、様々な人との連携・交流を進めます。

「川の博物館」と連携し、県内唯一の自然系総合博物館として、秩父地域から埼玉全域へと視野を広げ、県民のみなさんとともに考え行動しながら、旺盛な博物館活動を展開していきます。

1 自然史資料を収集・保管し、調査研究して、将来へ継承します。(データバンク機能)

自然史分野を総合的に扱える県内唯一の博物館として、埼玉の自然とその変遷に関する生物・岩石・化石資料や、自然と人との共生に関する資料を収集・整理・保管します。

また、これらの資料を調査研究し、埼玉の自然について明らかにしていくとともに、資料価値を高め将来へ遺します。

2 資料を活用し、多彩な情報を発信します。(情報発信機能)

「過去から未来へ 埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、展示や教育普及活動などを通じて、県民をはじめとする広範な人々へ情報を提供します。利用者の多様なニーズに合わせ、自然に親しむための情報や調査研究に基づく学術情報など、魅力的な情報を発信します。

3 学習を支援し、自然に関心をもつ人材を育成します。(学習支援・人材育成機能)

学校や社会教育施設、地域社会を対象に、地域の自然や館有資料を活用した体験学習を推進・支援します。これらの体験学習や展示を通じて、人々の知的好奇心を刺激し、自然に関心をもつ人材の育成に貢献します。

4 さまざまな人々と連携・交流を進めます。(連携・交流・啓発機能)

自然に関心をもつ個人、地域社会、関係機関・諸団体と連携・交流を進めます。こうしたネットワークを少しずつ広げながら、人・もの・情報が集まる博物館とすることにより、相互のレベルアップを図っていきます。

1. 沿革

昭和

- 52.3 埼玉県議会で自然系博物館の建設決定
- 52.11.16 埼玉県立自然系博物館建設基本構想策定協議会委員 14 名委嘱
- 53.4.1 自然系博物館設立準備委員 2 名委嘱
- 54.2.6 埼玉県立自然系博物館展示構想策定委員 4 名委嘱
- 54.4.1 建設地決定、準備委員 4 名発令
- 54.9.25 建築基本及び実施設計を前川国男建築設計事務所へ委託
- 55.4.4 埼玉県立自然史博物館(仮称)準備事務所開設、準備委員 5 名発令
- 55.4.17 埼玉県立自然史博物館(仮称)建築工事起工式挙行
- 55.9.19 展示企画・基本設計委託(7社)
- 55.10.1 職員 9 名発令
- 56.1.26 展示実施設計を(株)日展に委託
- 56.3.31 建築工事完成
- 56.5.1 展示製作業務を(株)日展に委託
- 56.11.10 埼玉県立自然史博物館条例、同管理規則施行
埼玉県立自然史博物館開館、館長須藤和人以下職員 18 名発令
- 56.11.11 一般公開
- 56.12.3 博物館法第 10 条による博物館登録
- 59.4.1 館長 三友清史発令
- 60.10.9 入館者累計 50 万人達成
- 60.12.9~21 アケボノゾウ骨格化石発掘調査
- 61.4.1 館長 紺野雄三発令

平成

- 1.4.1 館長 島田道郎発令
- 2.4.21 入館者累計 100 万人達成
- 3.3.12 日本生命財団より展示総合案内寄贈
- 3.4.1 館長 大熊欽一発令
- 3.10.19~11.24 開館 10 周年記念特別展「よみがえる太古の巨大ザメ」開催
- 5.5.12 天皇・皇后行幸啓
- 5.12.12 「日本地質学発祥の地」記念碑建立式典挙行
- 6.4.1 館長 中島利治発令
- 6.10.1 入館者累計 150 万人達成

- 6.11.21 新化石種「チチブサワラ」公表
- 7.2.28 身障者用エレベーター設置
- 7.3.15 映像展示「地形の変遷」改修
- 7.12.25 映像展示「マイクロ・マクロの世界」改修
- 8.3.27 第 1 ~ 第 3 収蔵庫空調機オーバーホール
- 9.3.31 吸収冷温水発生機修繕工事
- 9.7.22 地形模型、変成岩パネル等展示改修
- 9.7.25 秋篠宮殿下同妃殿下お成り
- 9.10.31 冷却塔水処理装置工事
- 10.2.28 特別収蔵庫空調機器交換工事
- 10.4.1 館長 梅沢太久夫発令
- 10.9.30 公共下水道接続工事
- 11.3.19 「パレオパラドキシア」埼玉県天然記念物指定(埼玉指第 462・463 号)
- 11.5.30 生物展示ホール「シャクナゲ咲く初夏の原生林」・「暗黒の世界鍾乳洞」にタッチライト設置
- 11.7.17~8.31 特別展「アユの生活誌」をさいたま川の博物館と共催
- 12.4.1 館長 増田逸朗発令
- 12.8.15 入館者累計 200 万人達成
- 12.8.23 生物展示ホール「みどりこい夏のアカマツ林」にタッチライト設置
- 12.10.1 館長 大友務発令
- 13.5.8 生物展示ホール「冬枯れの雑木林と池や沼」にタッチライト設置
- 14.3.18 生物展示ホール照明改修
- 14.3.26 身障者用駐車場改修
- 14.6.21 パレオパラドキシア般若標本の産出状態レプリカを展示
- 14.8.9 オリエンテーションホールの照明改修
- 14.10.5~12.8 特別展「奥秩父の自然」開催
- 14.10.8~12.8 特別展「ヤマネー森に棲むもの 西村豊写真展」開催
- 15.4.1 館長 谷井彪発令
- 15.10.4~12.9 特別展「里山の自然」開催
- 16.12.27 駐車場改修工事完了(第二工区)
- 17.3.22 「大野原産チチブクジラ骨格化石」埼玉県天然記念物指定(埼玉指第 503 号)

- 17.4.1 館長 柿沼幹夫発令
 17.10.8～12.4 特別展「石の用と美」開催
 18.4.1 県立博物館施設の再編により「県立自然の博物館」に名称変更
 18.4.1 館長 柿沼幹夫発令（川の博物館長と兼務）
 18.7.22～9.3 特別展「巨大昆虫の世界」開催
 19.4.1 館長 本間岳史発令（川の博物館長と兼務）
 19.11.23 入館者累計 250 万人達成
 20.2.2 展示室リニューアルオープン
 20.4.1 館長 本間岳史発令（兼免）
 20.4.1 環境担当（川の博物館常駐）を設置
 20.7.20 ～8.31 特別展「巨大昆虫の世界 II」開催*
 21.4.1 館長 鈴木敏昭発令
 21.7.18～8.81 特別展「埼玉圏の原始・古代人」開催*
 22.4.1 館長 井上肇発令
 22.9.18～11.14 特別展「葉の世界—そのかたちと利用を探る—」開催*
 23.4.1 館長 根岸玲発令
 23.9.1～24.10.5 施設改修のため休館
 （講師派遣等館外で行う事業は実施）
 23.9.17～11.20 特別展「発掘・発見 埼玉のふるさと 秩父のおごっつおう」開催*
 24.4.1 館長 渋谷重雄発令
 24.10.6 リフレッシュオープン
 24.7.14～9.2 特別展「今だって氷河時代」開催*
 25.4.1 館長 井上尚明発令
 25.7.13～9.1 特別展「和船大図鑑—荒川をつなぐ舟・ひと・モノ—」開催*
 26.4.1 館長 井田秀夫発令

*印 企画=自然の博物館、実施=川の博物館



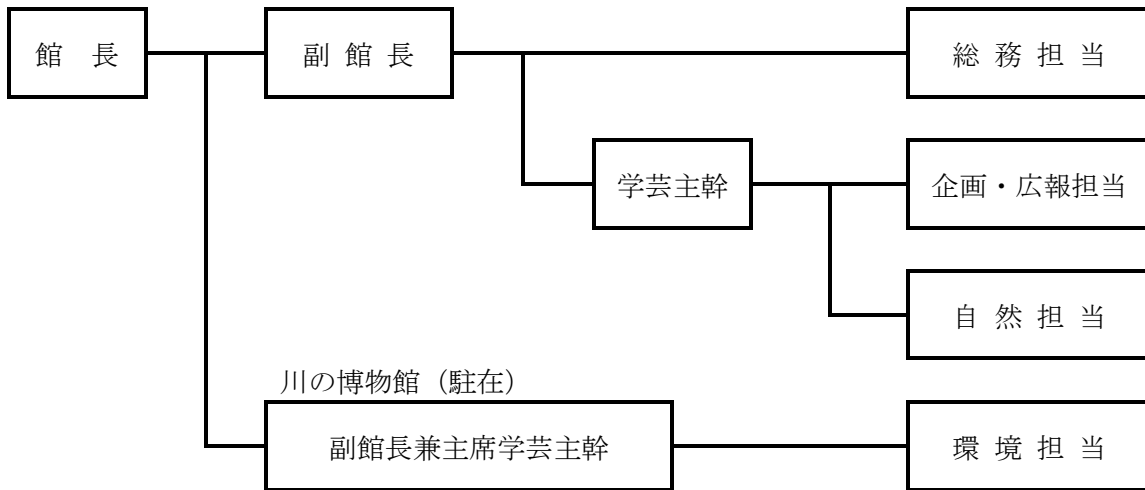
表紙写真について

表紙の写真をご覧になり、何の写真かわかりましたか？ 実は、マツボックリ（球果）なのです。リスやムササビがマツの種子を食べる際に、りん片を噛みちぎります。その残りの部分、つまりマツボックリの芯の部分です。当館の周りにはアカマツの木があちらこちらにあり、このようなマツボックリの芯は頻繁に見られます。平成25年は8月上旬から落ち始め、ある日には51個のマツボックリの芯が落ちていました。当館では、動物生態を示す資料の1つとして毎年採集しています。

この写真を当館のホームページ（ツイッター）に「博物館の前に大量のえびフライが…」と題して載せたところ、25年度では最高の反響を得ることができました。自然が生んだ偶然の出来事ですが、改めて自然の面白さを感じました。

2. 組織及び職員構成(平成26年度)

(1) 組織



(2) 職員構成(平成26年4月1日現在)

館長 井田秀夫
副館長兼主席学芸主幹 二階堂実
副館長 中村修美
○総務担当
担当部長 田端紀夫
主任 浅見靖
主任 河田隼一郎

○企画・広報、自然担当

学芸主幹 榆井尊

○企画・広報担当

担当課長 山田和彦
担当課長 坂田直樹
主任 町田聖幸

○自然担当

担当課長 曾根崎猛史
主任学芸員 井上素子
学芸員 奥村みほ子
学芸員 北川博道
学芸員 木山加奈子
学芸員 山本薫*
学芸員 高橋美織*

○環境担当

担当課長 青木勝美
学芸員 小林まさ代
学芸員 岩嶋孝典*

※ 副館長兼主席学芸主幹、環境担当は川の博物館駐在。

(3) 人事異動

平成26年3月31日

館長 井上尚明(退職)
自然担当課長 碓井徹(退職)
総務担当部長 宮崎美光(転出)
総務担当主任 井上剛(転出)
企画広報専門員兼学芸員 大久根茂(転出)
企画広報専門員兼学芸員 今井宏(任期満了)
自然担当主事 石川直子*(任期満了)
自然担当主事 勝又暢之*(任期満了)
環境担当学芸員 五十嵐咲*(任期満了)

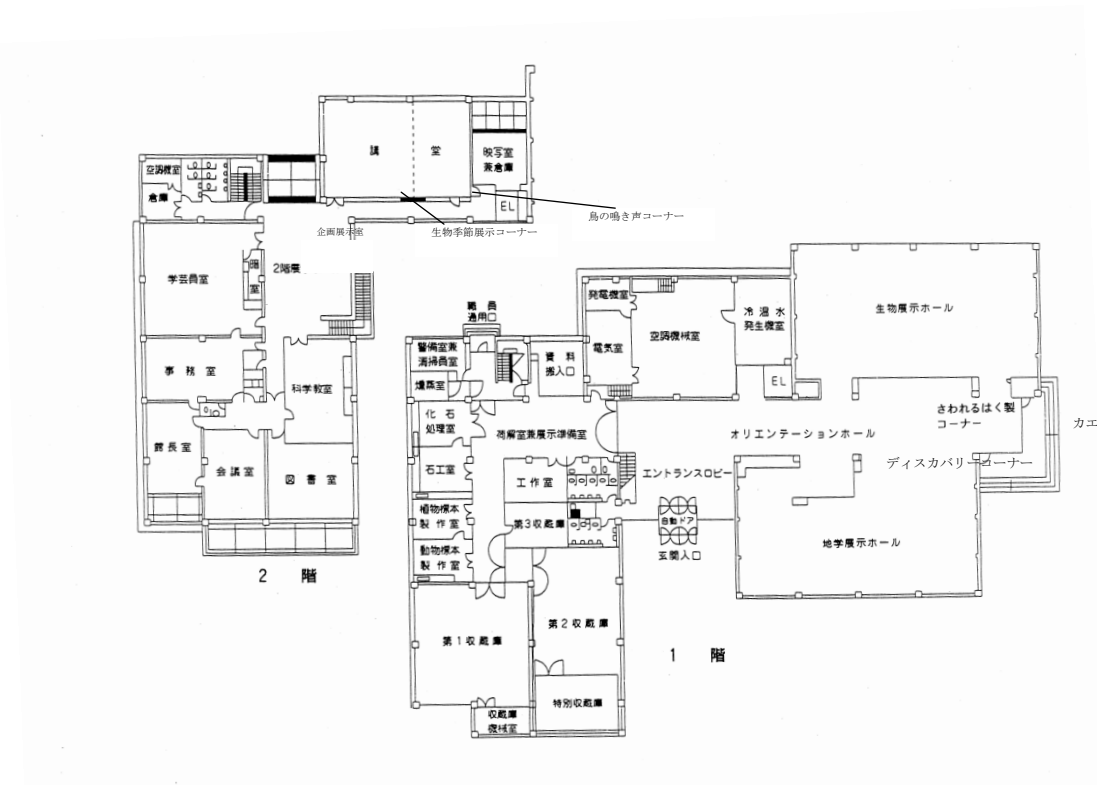
平成26年4月1日

館長 井田秀夫(転入)
総務担当主任 河田隼一郎(転入)
企画広報担当課長 山田和彦(転入)
企画広報担当課長 坂田直樹(転入)
自然担当学芸員 木山加奈子(新任)
自然担当学芸員 山本薫*(新任)
自然担当学芸員 高橋美織*(新任)
環境担当学芸員 岩嶋孝典*(新任)

(*印: 臨任)

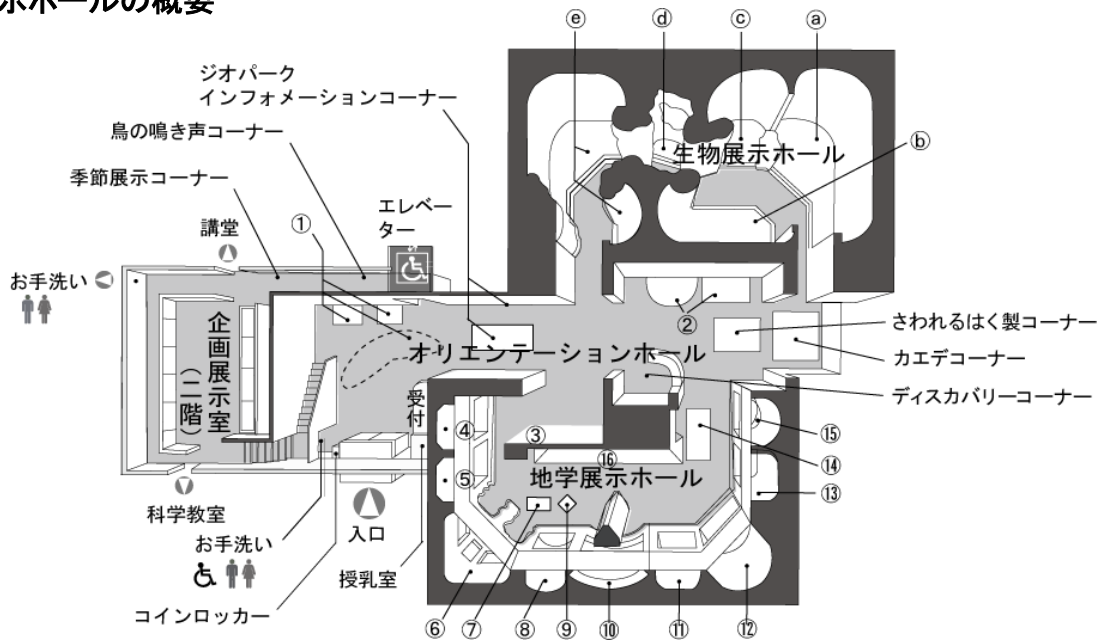
3. 施設の概要

- (1) 所在地 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417番地の1
- (2) 敷地面積 9,948.76㎡
- (3) 建物の構造及び床面積 鉄筋コンクリート、2階建、延 3,022.29㎡
- (4) 各部門及び各室の面積
 - ア 展示部門 1,160.0㎡(38.48%)
 エントランスロビー(78㎡)、オリエンテーションホール(254㎡)、地学展示ホール(303㎡)、
 生物展示ホール(342㎡)、さわれるはく製コーナー(5㎡)、企画展示室(150㎡)
 ディスカバリーコーナー(22㎡)、カエデコーナー(6㎡)
 - イ 教育部門 269.5㎡(89%)
 講堂(150㎡)、映写室(43㎡)、科学教室(73.5㎡)、倉庫(3㎡)
 - ウ 研究部門 202.5㎡(67%)
 学芸員室(132㎡)、図書室(70.5㎡)
 - エ 技術部門 158.4㎡(5.2%)
 化石処理室(27㎡)、石工室(27㎡)、植物標本製作室(27㎡)、動物標本製作室(27㎡)、
 工作室(23.6㎡)、くん蒸室及び同前室(16㎡)、暗室(10.8㎡)
 - オ 保管部門 529.9㎡(17.5%)
 第1収蔵庫(149㎡)、第2収蔵庫及び同前室(125.7㎡)、第3収蔵庫(28.8㎡)、
 特別収蔵庫(58.4㎡)、資料搬入口(36㎡)、荷解室兼展示準備室(90㎡)、搬入通路(42㎡)
 - カ 管理部門 498.1㎡(16.5%)
 館長室(47.3㎡)、事務室(63㎡)、会議室(54㎡)、警備員室兼清掃員室(20.8㎡)、倉庫(23.8㎡)、
 機械室(261.5㎡)、空調機械室(9.7㎡)、収蔵庫機械室(18㎡)
 - キ その他(共通) 203.89㎡(67%)
 エレベーター(11㎡)、湯沸室(3㎡)、便所(4ヶ所・66.8㎡)、階段・廊下(123.09㎡)



4. 展示の概要

(1) 展示ホールの概要



(2) 展示テーマ (丸数字、丸記号は上の図と対応している)

◇ オリエンテーションホール

- ・ (総合サイン) 過去から未来へ
埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生
- ・ カルカロドン・メガロドン①
- ・ ジオパークインフォメーションコーナー
長瀨の地質
秩父・長瀨の地質学史と博物館のあゆみ
長瀨の見どころ
- ・ パレオパラドキシア②

◇ 体験ゾーン

- ・ ディスカバリーコーナー
新たな発見や感動の体験
- ・ カエデコーナー
カエデを中心とした展示
- ・ さわれるはく製コーナー
親しまれているけものや野鳥たち

◇ 地学展示ホール

- ・ 荒川上流部③
- ・ 秩父帯の地層
秩父帯の地層④
2億5000万年前の海の様子⑤
秩父鉾山⑥
秩父鉾山の鉾物⑦
- ・ 恐竜時代の地層⑧
山中地溝帯
1億年前の海と陸のようす
- ・ ソールマーク
- ・ 岩石の変形⑨

- ・ 埼玉の変成岩⑩
- ・ 盆地と丘陵⑪
新第三紀中新世の海
- ・ 砂泥互層
- ・ 新時代の幕あけ⑫
第四紀はじめの化石林—メタセコイア—
- ・ 地層の断面
- ・ アケボノゾウがいたころのようす⑬
- ・ アケボノゾウ骨格復元模型⑭
- ・ 第四紀地形の変遷 (ビデオ展示) ⑮
- ・ 埼玉の地形と地質⑯

◇ 生物展示ホール

- ・ 冬枯れの雑木林と池や沼②
- ・ みどりこい夏のアカマツ林③
- ・ いろどられるブナ林と溪流④
- ・ 石灰岩にきざまれた自然の造形、鍾乳洞⑤
- ・ シャクナゲ咲く初夏の原生林⑥

◇ 企画展示室(2階)

- 各ホールの展示とは別に、年3～4回テーマを設定し展示しています。

◇ 季節展示コーナー(2階)

- 季節の移り変わりを写真中心に展示しています。

◇ 鳥の鳴き声コーナー(2階)

- 身近な鳥のはく製を展示し、その鳴き声をおしやべりマイマイ (展示物解説用具) により聞くことができます。

5. 平成26年度事業計画

(1) 管理運営事業

埼玉の自然及び自然と人々の暮らしとの関わりに関する資料の収集、整理保管、調査研究及び教育普及、展示事業等を円滑に推進するため、自然の博物館全般の管理運営に努めます。

(2) 展示事業

展示を充実し、県民の多様なニーズに応えるため、次の事業を実施します。

① 常設展示の充実、改修、補修と維持管理

ア 常設展示の充実

(ア) 地学展示ホールに化石レプリカ等の展示を追加するなど、展示内容の充実を図ります。

(イ) オリエンテーションホールに、ジオパーク秩父を解説する展示内容を更新します。

(ウ) 地学・生物両展示ホールの褪色・汚損が見られるパネルや、最新の学術情報の解説が必要な展示を制作更新します。

イ 展示資料および展示器材等の補充・管理

常設展示で使用している資料の補充や、展示台等の器材の補修・交換を行います。

ウ 「体験ゾーン」の維持管理

野生動物を身近に感じてもらうために、傷んだはく製を随時入れ替えるなど、「さわれるはく製コーナー」の維持管理に努めます。

また、ディスカバリーコーナーやカエデコーナーの更新を定期的実施します。

② 特別展の実施

ア タイトル：「恐竜時代 ～海と陸の支配者たち～」

期 間：平成26年6月11日（水）～10月26日（日）

会 場：企画展示室・オリエンテーションホール

概 要：全長10メートルを超える草食恐竜「マラウイーサウルス」、アフリカの狩人の名を持つ肉食恐竜「アフロベナトール」など、太古の大地を駆け抜けた恐竜や海に大繁栄したアンモナイトなど多数の化石を展示します。

イ タイトル：「荒川流域の鉱山と産業 ～地下資源の利用と人々の暮らし～」

（企画：自然の博物館、運営：川の博物館）

期 間：平成26年10月4日（土）～11月24日（月）

会 場：埼玉県立川の博物館 第2展示室

概 要：秩父地域を中心とする荒川流域に多数存在する、鉱山の発展と衰退と

いう視点から、荒川上流域の自然、産業、経済、文化について紹介します。

③ 企画展示の実施

ア タイトル：どうなっているの？埼玉県の動植物

期 間：平成26年4月1日（火）～平成26年5月25日（日）

会 場：企画展示室

概 要：埼玉県内で絶滅の危機にある動植物「シラコバト」や「ヤマネ」などの天然記念物や、県で採集された唯一の標本である「オオイチモンジ」など貴重な標本を多数展示します。

イ タイトル：カラフル昆虫記

期 間：平成26年11月8日（土）～平成27年2月22日（日）

会 場：企画展示室

概 要：金属のような光を放つフン虫、季節によって色を変えるアカボシゴマダラをはじめ、派手な虫、渋い虫、不思議な模様の虫など変わったデザインの虫を特集します。

ウ タイトル：お蔵出し新収集品展

期 間：平成27年3月7日（土）～平成27年3月31日（火）

会 場：企画展示室

概 要：荒川河床で発見されたクジラの化石、チョウや甲虫、オサムシのコレクション、アカショウビンやオオタカの骨格標本など、近年（平成18～）新たに収蔵された資料を紹介します。

④ 季節展示の実施

ア タイトル：地質名所の四季

期 間：平成26年4月1日(火)～平成26年5月11日（日）

会 場：企画展示室季節展示コーナー

概 要：岩畳や「ようばけ」などの地質名所の四季の移り変わりを紹介します。

イ タイトル：メタセコイアの四季

期 間：平成26年5月13日(火)～平成26年7月13日（日）

会 場：企画展示室季節展示コーナー

概 要：植栽60年を記念して、生きた化石メタセコイアの来歴と生活史を紹介します。

ウ タイトル：水辺の生きもの

期 間：平成26年7月15日(火)～平成26年10月12日(日)

会 場：企画展示室季節展示コーナー

概 要：川や池沼の周辺で暮らす動植物の生態を紹介します。

エ タイトル：長瀬名勝天然記念物90年

期 間：平成26年10月14日(火)～平成27年1月18日(日)

会 場：企画展示室季節展示コーナー

概 要：長瀬が名勝天然記念物に指定されて90年、懐かしい写真をもとに長瀬の90年を振り返ります。

オ タイトル：春を待つ生きもの

期 間：平成27年1月20日(火)～平成27年3月31日(火)

会 場：企画展示室季節展示コーナー

概 要：寒い冬を生き抜く生きものたちの、生きるための工夫を紹介します。

⑤ 共催展示の実施

ア タイトル：第8回(通算33回)自然科学展(仮称)

期 間：平成26年7月20日(日)～8月31日(日)

会 場：熊谷市立熊谷図書館郷土資料室

概 要：水辺や平野及び山の鳥の剥製・標本を多数展示、紹介します。

(3) 教育普及事業

県民の自然に関する関心と理解を深めるため、体験学習等の機会を提供します。

平成26年度は、次の事業を実施します。

- | | |
|-----------------------------------------------------------------------------|----------|
| ① 自然史講座 | 10回(10日) |
| ② 観察会 | 10回(10日) |
| ③ ミュージアムトーク | 40回(40日) |
| ④ その他事業 | 5回(21日) |
| ⑤ 児童・生徒・学生等の学習支援
理科や総合的な学習の時間、環境教育、キャリア教育等の支援 | 20回(20日) |
| ⑥ 指導者対象講座の開催
授業に役立つ自然史体験講座 | 1回(1日) |
| ⑦ 各種研修会・教育研究団体の受け入れ
県立総合教育センター主催の教員研修会をはじめ、各種研修会や研究団体の研修や行事等を積極的に受け入れます。 | |
| ア 中学校初任者研修(教科別研修・理科) | 1回(1日) |
| イ 中学校5年経験者研修(理科) | 1回(1日) |

- ウ 小・中学校初任者研修（みどりと川の埼玉の歴史を学ぶ体験研修）
6回（ 6日）
 - エ 高等学校・特別支援学校等5年経験者研修（社会貢献活動体験研修）
1回（ 2日）
 - オ 20年経験者研修（社会体験・ボランティア体験研修）
1回（ 3日）
- ⑧ 博物館学芸員実習・職場体験等の受け入れ
- ア 博物館学芸員実習
実習期間 平成26年8月1日（金）～8月8日（金）（月曜休の7日間）
 - イ 中学生職場体験実習（長瀨中）
 - ウ 高校生インターンシップ（皆野高校）
 - エ 大学生インターンシップ
- ⑨ 自然の博物館友の会の活動への支援
- ア 定期総会、野外観察会（5回）、交流会（1回）の開催
 - イ 会報「みんなの自然史」第79～80号
- ⑩ 各種印刷物の刊行・配布
- ア 埼玉県立自然の博物館報 第9号
 - イ 埼玉県立自然の博物館研究報告 第9号
 - ウ 催し物案内
 - エ 自然の博物館ニュースレター「瀨」 第23号～第24号
 - オ 特別展「恐竜時代ー海と陸の支配者たちー」・「荒川流域の鉱山と産業」図録・リーフレット・企画展リーフレット
 - カ 観察会等のテキストや研究発表会の資料
 - キ 自然の博物館利用講座テキスト及び指導資料
 - ク 自然の博物館利用の手引き
 - ケ 展示解説リーフレット
- ⑪ 外部研究者の受入と活用
- 外部の研究者に施設や収蔵資料を活用してもらい、また、共同研究を行って博物館の基礎的力量を高めます。
- ⑫ ボランティアの受入
- 生涯学習や自己実現の場を提供し、重要なパートナーとして、博物館活動の質を高めます。
- ア 展示解説ボランティア
ボランティアによる展示解説を実施します。
 - イ 普及事業ボランティア
観察会・講座等の事業を補助します。
 - ウ 資料整理ボランティア
専門知識のあるボランティアが、標本化作業を補助します。

エ 調査・資料収集補助ボランティア

学芸職員とともに、博物館の調査研究・資料収集を補助します。

(4) 資料収集整理事業

自然に関する資料を収集・整理・保管し、県民に供するため、次の事業を実施します。

- ① 化石資料の整理と登録
- ② 岩石・鉱物系資料の整理と登録
- ③ 維管束植物の標本作製と登録
- ④ 非維管束植物の標本作製と登録
- ⑤ 昆虫標本の同定と整理、登録
- ⑥ 昆虫以外の無脊椎動物の整理と登録
- ⑦ 大型動物の触察剥製の作製と登録
- ⑧ 小型脊椎動物の骨格標本の作製と登録
- ⑨ 図書を除く二次資料の収集と整理
- ⑩ 定期刊行物を中心とする図書資料の整理
- ⑪ 「ジオパーク秩父」に関連する文献資料の収集と整理
- ⑫ 川の博物館の収蔵庫内に保管されている自然史系資料の整理
- ⑬ インターネットを通じての収蔵資料の積極的公開

(5) 調査研究事業

- ① 埼玉の自然及び自然と人々との関わりに関する研究

標記の総合研究テーマに基づき、分野ごとに研究テーマを設定し、調査研究を行います。研究の成果は、研究報告書等で公表し、展示・教育普及事業等で活用するよう努めます。

分野別研究テーマ

ア 自然分野：埼玉の自然に関する研究

イ 環境分野：埼玉の自然と人々の関わりに関する研究

- ② 特別天然記念物カモシカ保護対策事業

カモシカ保護地域における生息環境・生息状況・食害状況に関する通常調査を行い、カモシカ保護管理の基礎資料として活用します。

6. 平成25年度事業報告

(1) 展示事業

展示を充実し、県民の多様なニーズに応えるため、次の事業を実施しました。

① 常設展示の充実、改修、補修と維持管理

ア 常設展示の充実

(ア) オリエンテーションホールに、ジオパーク秩父を解説する展示を設置しました。

(イ) 地学・生物両展示ホールの褪色・汚損が見られるパネルや、最新の学術情報の解説が必要な展示を制作更新しました。

イ 展示資料および展示器材等の補充・管理

常設展示で使用している資料の補充や、展示台等の器材の補修・交換を行いました。

ウ 「体験ゾーン」の維持管理

野生動物を身近に感じてもらうために、傷んだはく製を随時入れ替えるなど、「さわれるはく製コーナー」の維持管理に努めました。また、ディスカバリーコーナーやカエデコーナーの更新をしました。ディスカバリーコーナーの年間更新回数は7回でした。

② 特別展の実施

ア タイトル：「和船大図鑑 ―荒川をつなぐ舟・ひと・モノ―」

(企画：自然の博物館、運営：川の博物館)

期 間：平成25年7月13日(土)～平成25年9月1日(日)

会 場：埼玉県立川の博物館 第2展示室

見学者：19,806名

担 当：松浦(平成24年度)、五十嵐(平成25年度)

概 要：昔から荒川で人々の交通手段や荷物の運搬に使われてきた和船を物流、船大工の技術、船絵馬(信仰)などの視点から紹介しました。

③ 企画展示の実施 ※担当の()内は副担当 以下同じ

ア タイトル：オオタカは大きくない ―鳥たちの世界―

期 間：平成25年4月1日(月)～平成25年6月9日(日)

会 場：企画展示室

見学者：22,466名

担 当：奥村(碓井)

概 要：未公開だった多数の鳥類のはく製を通して、鳥の世界を紹介しました。

- イ タイトル：「新参者昆虫図鑑 ー多様な埼玉のいきものー」
期 間：平成25年6月22日（土）～平成25年9月1日（日）
会 場：企画展示室
見学者：21,423名
担 当：碓井（奥村、曾根崎）
概 要：平野部から亜高山帯まで、埼玉県が多様な自然環境に息づく様々な動植物を紹介。また、近年になって本県に侵入してきた昆虫を取り上げました。
- ウ タイトル：彩発見！埼玉の太古の海の恵み展
期 間：平成25年9月14日（土）～平成26年1月26日（日）
会 場：企画展示室、オリエンテーションホール（階段下）
見学者：18,575名
担 当：北川（奥村、石川）
概 要：太古の海が作りだす地質資源がもたらす恵みと人と生物の営みを紹介しました。
- エ タイトル：どうなっているの？ 埼玉県の動植物ーレッドデータブックのいきものー
期 間：平成26年2月8日（土）～平成26年3月31日（月）（年度またぎ）
会 場：企画展示室
見学者：3,130名（3月31日現在）
担 当：曾根崎（勝又）
概 要：最新の埼玉県版レッドデータブック動物編（2008）・植物編（2011）で取り上げられた希少種について、収蔵する動物剥製や昆虫標本、植物標本、植物レプリカなどを展示・解説することにより、本県の希少種や絶滅危惧種の現状について県民に理解を深めていただきました。

④ 季節展示の実施

- ア タイトル：春の植物
期 間：平成25年4月2日（火）～平成25年5月12日（日）
会 場：企画展示室季節展示コーナー
見学者：9,337名
担 当：勝又（石川）
概 要：カタクリなどの春植物や早春に花の咲く植物を紹介しました。
- イ タイトル：夜の訪問者 ー自動撮影カメラのモデルたちー
期 間：平成25年5月14日（火）～平成25年6月30日（日）
会 場：企画展示室季節展示コーナー

見学者：8,112名

担当：奥村（碓井）

概要：あまり知られていない野生動物(夜行性)たちの姿を写真展示しました。

ウ タイトル：秩父を訪れた研究者たち

期間：平成25年7月10日（水）～平成25年9月1日（日）

会場：企画展示室季節展示コーナー

見学者：19,791名

担当：北川（奥村、石川）

概要：日本地質学発祥の地を彩った人々（ナウマン、小藤文次郎、藤本治義）と自然の博物館の歴史を紹介しました。また、宮沢賢治の歌碑などを紹介するとともに氏の足跡をたどりました。さらに、現在秩父を中心に研究を行っている研究者たちを紹介しました。

エ タイトル：岩畳昆虫図鑑

期間：平成25年9月3日（火）～平成25年10月20日（日）

会場：企画展示室季節展示コーナー

見学者：7,045名

担当：曾根崎、碓井（奥村）

概要：長瀨岩畳と周辺河畔林で見られる昆虫の生態・標本・写真等を展示し、岩畳の環境の多様性とそこに暮らす昆虫を紹介することで県民の自然に対する理解を深めました。

オ タイトル：カエデの紅葉

期間：平成25年10月22日（火）～平成25年12月15日（日）

会場：企画展示室季節展示コーナー

見学者：10,390名

担当：勝又（石川）

概要：カエデの森とあわせ、紅葉したカエデの写真を展示し、自然の美しさを紹介しました。

カ タイトル：長瀨冬景色

期間：平成25年12月17日（火）～平成26年2月16日（日）

会場：企画展示室季節展示コーナー

見学者：2,899名

担当：井上（碓井）

概要：冬だからこそ見ることができる岩畳の光景や、動植物の冬越しの様子などを紹介しました。

キ タイトル：地質名所の四季

期間：平成26年2月18日（火）～平成26年5月11日（日）（年度またぎ）

会 場：企画展示室季節展示コーナー

見学者：2,982名（3月31日現在）

担 当：北川（井上）

概 要：岩畳やようばけなどの地質名所の四季の移り変わりを紹介しました。

⑤ 共催展示の実施

ア タイトル：「第7回自然科学展 「今と昔の生き物たち」

期 間：平成25年7月20日（土）～平成25年9月1日（日）

会 場：熊谷市立熊谷図書館郷土資料室

見学者：4,168名

担 当：奥村（碓井）

概 要：大昔の生物の化石や、今も大自然の中に息づく様々な動物の剥製、昆虫標本を多数展示しました。

イ タイトル：「埼玉のいきものたちからの招待状 「身近な自然」

期 間：平成25年10月17日（日）～平成26年1月19日（日）

会 場：羽生市立図書館・郷土資料館展示室

見学者：6,081名

担 当：碓井（奥村）

概 要：平野部から亜高山帯まで、多様な埼玉の自然が育てている動植物を紹介しました。

ウ タイトル：第4回惑星地球フォトコンテスト入選作品展示会

期 間：平成25年5月25日（土）～平成25年6月9日（日）

会 場：自然の博物館講堂

見学者：3,054名

担 当：楡井

概 要：日本地質学会共催の「第4回惑星地球フォトコンテスト」の入選作品を展示し、県民の地質や地球に対する興味関心を高めました。

⑥ おしゃべりマイマイ(展示物解説用具)利用実績

月	貸出数	月	貸出数
H25年4月	907	H25年10月	499
H25年5月	960	H25年11月	1,098
H25年6月	722	H25年12月	280
H25年7月	833	H26年1月	306
H25年8月	2,065	H26年2月	147
H25年9月	711	H26年3月	277
		合計	8,805

(2) 教育普及事業

県民の自然に関する関心と理解を深めるため、体験学習等の機会を提供しました。平成25年度は、次の事業を実施しました。なお、それぞれの事業の詳細は19ページから32ページにかけての資料をご覧ください。

- | | | | |
|------------------|----------|-----|-------|
| ① 自然史講座 | 6回(6日) | 参加者 | 113名 |
| ② 観察会 | 9回(9日) | 参加者 | 202名 |
| ③ ミュージアムトーク | 40回(40日) | 参加者 | 1033名 |
| ④ その他の事業 | 10回(11日) | 参加者 | 1938名 |
| ⑤ 児童・生徒・学生等の学習支援 | 33回(33日) | | |
- 理科や総合的な学習の時間、環境教育等において出前授業や野外授業の講師として支援を実施しました。
- | | | | |
|-------------------------------------------------------|------------|-----|-----|
| ⑥ 指導者対象講座の開催 | | | |
| 授業に役立つ自然史体験講座 | 1回(1日) | 参加者 | 21名 |
| ⑦ 各種研修会・教育研究団体の受け入れ | | | |
| 県立総合教育センター主催の教員研修会をはじめ、各種研修会や研究団体の研修や行事等を積極的に受け入れました。 | | | |
| ア 中学校初任者教科別研修(理科) | 1回(1日) | | |
| イ 小・中学校初任者研修(みどりと川の埼玉の歴史を学ぶ体験研修) | 7回(7日) | | |
| ウ 高等学校・特別支援学校等5年経験者社会貢献体験研修 | 1回(2日) | | |
| エ 20年経験者社会体験・ボランティア研修 | 1回(3日) | | |
| ⑧ 博物館学芸員実習・職場体験等の受け入れ | | | |
| ア 中学生職場体験学習 | | | |
| 3名受け入れ(長瀬中学校) | | | |
| 実習期間 平成25年7月10日(水)～7月12日(金) | (3日間) | | |
| イ 博物館学芸員実習 | | | |
| 3名受け入れ(日本大学、立正大学、東京都市大学) | | | |
| 実習期間 平成25年8月1日(木)～8月8日(木) | (月曜休の7日間) | | |
| ウ 高校生職業体験学習 | | | |
| 4名受け入れ(皆野高校) | | | |
| 実習期間 平成25年8月7日(水)～8月8日(木) | (2日間) | | |
| エ 県庁インターンシップ | | | |
| 1名受け入れ(埼玉工業大学) | | | |
| 実習期間 平成25年8月20日(火)～30日(金) | (月曜休の10日間) | | |

- ⑨ 自然の博物館友の会の活動への支援
 - ア 定期総会、野外観察会（6回）、交流会（1回）の開催
 - イ 会報「みんなの自然史」第77～78号
- ⑩ 各種印刷物の刊行・配布
 - ア 埼玉県立自然の博物館報 第8号
 - イ 埼玉県立自然の博物館研究報告 第8号
 - ウ 催し物案内
 - エ 自然の博物館ニュースレター「澗」 第21号～第22号
 - オ 特別展「和船大図鑑」図録・リーフレット・企画展リーフレット
 - カ 観察会等のテキストや研究発表会の資料
 - キ 自然の博物館利用講座テキスト及び指導資料
 - ク 自然の博物館利用の手引き
 - ケ 展示解説リーフレット
- ⑪ 外部研究者の受入と活用

外部の研究者に施設や収蔵資料を活用してもらい、また、共同研究を行って館の基礎的力量を高めました。
- ⑫ ボランティアの受入

生涯学習や自己実現の場を提供し、重要なパートナーとして、博物館活動の質を高めることを目的に積極的に受け入れてきました。

 - ア 展示解説ボランティア

一般観覧者に対し、ボランティア解説員による展示解説の補助を実施してもらいました。
 - イ 普及事業ボランティア

観察会・講座等の事業の補助をしました。
 - ウ 資料整理ボランティア

専門知識のあるボランティアにより、標本化作業の補助をしてもらいました。
 - エ 調査・資料収集補助ボランティア

学芸職員とともに、博物館の調査研究・資料収集を補助してもらいました。